

2012年12月期第 1 四半期決算

2012年5月2日
キリンホールディングス株式会社

2012年 第1四半期ハイライト

売上高が過去最高 今期目標「売上反転・拡大」の実現にむけ順調なスタート

(億円)	2012年 1 Q	対前年増減	
国内酒類	1,709	15	0.9%
国内飲料	660	8	1.4%
海外酒類・飲料	1,529	352	30.0%
医薬・バイオケミカル	848	▲278	▲24.7%
その他	224	▲15	▲6.4%
売上高	4,972	83	1.7%
国内酒類	43	▲7	▲13.8%
国内飲料	▲39	▲19	—
海外酒類・飲料	65	3	5.2%
医薬・バイオケミカル	187	▲39	▲17.4%
その他	4	▲11	▲70.7%
営業利益	253	▲76	▲23.3%
持分法による投資損益	▲28	▲24	—
経常利益	192	▲101	▲34.6%
特別損益	▲12	18	—
税金等調整前四半期純利益	179	▲83	▲31.8
四半期純利益	▲30	▲9	—

●国内総合飲料の増収（酒類・飲料計+24億円）、及びスキンカリオール社連結（+382億円）が売上増加に寄与

●海外酒類・飲料が増益。事業構造改革を進めるライオン社が増益（+32億円）となり、スキンカリオール社連結に伴うのれん償却費の増加（▲25億円）を補う

●医薬・バイオケミカルは、化学品事業連結除外が影響（売上高▲327億円、営業利益▲21億円）

●クロス・カンパニー・チームによるコストシナジーなど、収益性・効率性の向上に向けた取り組みを引き続き推進

国内総合飲料

国内総合飲料全体での成長にむけ、酒類・飲料ともに販売数量が着実に前年を上回る

(億円)		2012年 1 Q	前年増減	
	麒麟ビール※2	1,503	24	1.6%
	メルシャン※3	154	▲10	▲6.2%
	麒麟ビバレッジ※4	662	▲1	▲0.2%
売上高※1		2,370	24	1.0%
	麒麟ビール※2	36	▲13	▲26.6%
	メルシャン	1	2	—
	麒麟ビバレッジ	▲37	▲20	—
営業利益※1		4	▲26	▲84.7%

- ※1 : 国内酒類+国内飲料
 ※2 : 麒麟ビール+麒麟ビールマーケティング
 ※3 : 前年増減▲10億円の内、酒類+10億円、事業外部化の影響▲18億円
 (水産飼料事業▲4、医薬・化学品事業▲14億円)
 ※4 : 前年増減▲1億円の内、国内+12億円、海外事業の連結除外▲14億円

<営業利益増減要因>

●麒麟ビール※2:

販売数量増(ビール類2.0%、RTD9.3%)により限界利益が増加(+6億円)。一方、震災後販促が制限された昨年と比較し販売費が増加(▲27億円)したことが影響

●メルシャン:

ワインの販売好調(対前年+24%)に加え、収益構造改革による販売費減等も寄与。1Qとしては3年ぶりに営業利益がプラス。

●麒麟ビバレッジ:

国内における販売数量増(対前年+6%)が寄与(+22億円)するも、容器構成差異等(▲10億円)及び、麒麟ビール同様、昨年比較での販売費増加(▲41億円)が影響

酒類の販売回復と飲料でのミックス改善やコスト削減により増益、計画通りの進捗

2012年 1 Q		KH連結ベース		現地ベース	
		億円	増減	百万AUD	増減
	酒類	527	2.1%	658	3.4%
	飲料	542	▲8.8%	676	▲7.7%
売上高 計		1,070	▲3.8%	1,334	▲2.6%
	酒類	145	14.0%	181	15.5%
	飲料	35	26.9%	44	28.6%
	本社費用	▲17	60.3%	▲21	62.3%
営業利益 計		163	13.1%	204	14.5%
のれん償却		▲61	▲1.4%	▲77	▲0.2%
ブランド償却		▲9	▲56.5%	▲11	▲55.9%

●酒類：

市場マイナスの中、主要ブランドの好調に加え、拡大するサイダーカテゴリーでの新たな提案や健康志向の低アルコールカテゴリーの強いブランド力により販売数量+4.6%を達成。プレミアム化とミックス改善も相まって、増収増益

●飲料：

低価格化で厳しい市場環境が続く中、PB契約は減少するも、フレーバードミルクやスペシャルティチーズなどの高付加価値商品が成長、引き続きコスト構造改革を進めた結果、減収増益

<のれん・ブランド償却前営業利益 増減要因>

百万AUD	2012年 1 Q	2011年 1 Q	増減	主な要因	
酒類	181	157	24	販売数量増減	10 (販売数量 4.6%)
				原材料コストダウン	2
				その他	12
飲料	44	34	9	販売数量増減	▲32 (販売数量 ▲12.5%)
				原材料コストアップ	▲21
				その他	63

①為替換算レート 2012年：1AUD=80.18円、2011年：1AUD=81.20円

②為替影響：売上高 ▲13億円（酒類 ▲6億、飲料 ▲6億）、営業利益 ▲2億円（酒類 ▲1億円、飲料 ▲0.4億円、本社費用 +0.2億円）
のれん償却 +0.7億円、ブランド償却 +0.1億円

スキンカリオール

新体制のスタート。天候不順の影響を受けるも、営業利益・EBITDAは計画どおりに進捗



2012年1Q		KH連結ベース (億円)	現地ベース (百万BRL)
	酒類	▲5.5%	
	飲料	1.8%	
販売数量（前年増減）		▲3.0%	
	酒類	247	544
	飲料	72	159
売上高※		319	704
	酒類・飲料合計	▲0	▲1
	のれん償却額	▲25	▲56
営業利益		▲26	▲57
EBITDA		22	49

※制度会計上含まれる税金等を除く管理会計ベース

①連結期間：2012年1月～2012年3月

②為替換算レート：1BRL=45.42円

●基盤ブランドの強化に向けたマーケティング・営業活動を推進。各バリューチェーンの機能強化・効率化に向けた施策も計画どおり実行。調達プロセスの抜本的改善に向けた取り組みは予定を上回るペースで進捗

●ブラジル南部を中心とした天候不順や、一部の不採算取引を停止した影響等により、当社のビール・清涼飲料の販売数量は前年を下回ったが、3月単月では反転しており、確実に回復基調にある

●売上高は計画をやや下回るが、適切なプライシングと費用管理の強化を進めた結果、営業利益、EBITDAは計画どおりに進捗



医薬・バイオケミカル

主力製品 腎性貧血治療剤「ネスプ®」は引き続き好調、
3月にはポテリジェント技術を応用した抗体医薬「ポテリジオ®」が国内医薬品製造販売承認を取得

(億円)		2012年 1 Q	前年増減	
	医薬	648	14	2.3%
	バイオケミカル	201	23	13.4%
売上高※		848	▲278	▲24.7%
	医薬	166	▲17	▲9.7%
	バイオケミカル	13	0	2.4%
営業利益※		187	▲39	▲17.4%

※売上高・営業利益の減少分の内、協和発酵ケミカル連結除外の影響は、
売上高▲327億円、営業利益▲21億円

<主要医薬品販売状況>

(億円)		2012年 1 Q	前年増減
腎	ネスプ	138	16%
	レグパラ	28	12%
免疫・アレルギー	アレロック	99	▲28%
	パタノール	54	▲26%
がん	グラン	29	▲11%
循環器系	コニール	42	▲10%
新製品	フェントス	8	86%
	アサコール	8	52%

●医薬品販売状況：

主力製品である腎性貧血治療剤「ネスプ」等が好調に推移。花粉飛散量が少なかった影響等により、抗アレルギー剤「アレロック」等の出荷は前年を下回る

●協和キリン富士フイルムバイオロジクス(株)：

富士フイルム株式会社とバイオシミラー医薬品の開発・製造・販売の合併会社を発足（3月）。合併会社からの技術収入が収益に寄与

●バイオケミカル事業：

円高の影響を受けたものの、アミノ酸・核酸関連物質を中心とする医薬・工業用原料の販売が前年を上回り増収増益

¶ 新薬開発状況

[ポテリジオ®点滴静注20mg](#)

成人T細胞白血病リンパ腫治療剤として国内医薬品製造販売承認を取得（3月）

[アボカイン®](#)

パーキンソン病治療剤として国内医薬品製造販売承認を取得（3月）

おいしさを笑顔に

KIRIN